

## 北区はく まつの幕末えい ぎょうに大きな影響を与えた大先生 坂井さか い経堂ぎょう どう!

坂井経堂は、1818（文政元）年に、上大月（大月新田）に生まれました。名（本名）は庄次郎といい、字（別名）は仲敬、そして経堂という号を名乗っていました。

名主の家に生まれた経堂は、若い時に江戸に出て、儒学者の佐藤一斎じゅう がく しゃ いっ さいに陽明学よう めい がくを学びました。3,000人の門下生のなかでも屈指の優等生であったと伝わっています。

帰郷後に名主を継ぐと、「四木の制」の導入を唱え、新発田藩主に意見を述べました。当時の人々の生活に欠かせない、漆、桑、楮、茶の4種の植物を植栽することを勧めて、藩の特産物とし、藩財政を改善しようと考えたからです。

さらに、新発田藩からの内意を受けて家塾を開き、地域の青年たちの教育にあたりました。経堂の学問と教育は新発田藩に認められ、1847（弘化4）年には、庶民に学問を教える社講という役に任命されました。

幕末の混乱した時代のなか、経堂は、勤皇の大義を貫くため、再び江戸に生まれました。しかし、1863（文久3）年、46歳で、志半ばにして江戸で亡くなってしまいました。

経堂の教え子のなかで、十二の曾我士郎・長戸呂の前田又之丞・浦木の曾我簡堂は、のちに岡方組正気隊という勤皇草莽隊を結成し、勤皇の志士として活躍しました。（60ページ参照）

坂井経堂先生顕彰碑（上大月）  
幕末に活躍した正気隊や北辰隊などが、直接間接に経堂の意志を継いだものであるということで、顕彰の機運が高まり、1967（昭和42）年12月に有志によって建てられました。



### MEMO

佐藤一斎（1772～1859）

江戸後期の儒学者。幕末に活躍した佐久間象山（思想家）や渡辺華山（蘭学者）は一斎に学びました。

陽明学

明の王陽明が唱えた儒学。日本では、社会変革の推進者に受け入れられました。

社講

新発田藩が庶民を教育するために設けた社講所の講師のこと。講義は夜間に行われました。